

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ 東ユニット		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和元年8月31日	評価結果市町村受理日	令和元年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kami=true&JiyosyoCd=2392700049-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族が面会に来ていただきやすい雰囲気づくりに努めている。スタッフで献立作りをしているが、季節や行事を取り入れ一緒に食材の買い出しや調理を行っている。誕生日には希望のお店に外食に行く、またはその方の希望に合ったプレゼントを考えるなど工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室入口には本人をモチーフとした切り絵風の表札が手作りで配され、廊下の一画にはクラフト作品の祠にお地蔵様が鎮座し、外出行事を雨天で断念した日には急ぎょパン喰い競争や運動会弁当風の食事とプログラム盛りだくさんの運動会が開催されていて、至る点において職員の力量の高さが覗える事業所です。年度始めの願い事は干支の切り抜きにそれぞれが想いを寄せるも、反応が薄かったり、発語が難しい利用者には「職員一同」としてエールが綴られ、リビングに集う利用者と職員の仲睦まじい様子や、各居室の個性性の際立ちからは、家族と職員、利用者が一つとなって穏やかで和やかな暮らしをつくっていることが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットリビングに理念「明るく笑い楽しめる心やすらぐ家」が掲げてあり誰でも見れるようになっている。理念を共有し少しでも楽しんでいただけるように取り組んでいる。実践で生かし切れているか疑問に思うこともある。	理念は揭示し、理念に基づくユニット目標もあります。また理念の推進を図るためには「職員個々の自覚の高まりを」との考えを以て、家族面会の折に持ち帰ってもらっている「ふるかわ新聞(毎月発行)」に「スタッフ紹介コーナー」を設けることを本年から始めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人クラブの方を招き臨時喫茶を開いたり、散歩中のあいさつなど少しでも地域との交流ができるようにしている。町内の回覧板もある。開設時からきてくれているボランティア団体がある。お花を持ってきて下さる方もいる。	菊の花や葉牡丹を届けてくださったり、餅つきのボランティアに尽力くださる老人会へ感謝の気持ちを伝えたいとの思いから、今年は喫茶イベントを開催しています。老人会の皆さんも飲んでくださり、「もっと知ってもらいたいですね」との職員の意欲に結ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブの方を招き臨時喫茶で、ふるかわの日常を感じて頂いた。地域の方に認知症の方の理解を深めていただけたようにしたいが機会が少なくできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、行事などの取り組み状況、事故、職員研修、今後の予定などの報告を行い意見をもらっている。ご家族様からも意見をいただきスタッフに伝え、ケアにつなげている。スタッフ全体的に議事録をしっかり読み実践に結び付けてほしい	職員がストレートに事実を報告したことが家族には堪えがたかったとの話をストレートにもらえるほど、和気藹々とした言いやすい場として成立しています。また挙げたことは速やかに改善していて、この件も職員がプラスの話を身につけることに実っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡事項についてはメールでのやり取り、電話での問い合わせも行う。窓口に出向いた時も質問や相談などには丁寧に答えてくれる。推進会議にも必ず参加して下さるので、ユニット長はかかわりが出来、身近に感じる	市内に地域密着型も増え大変な中、運営推進会議には毎回市役所職員が出席くださっています。本年は1食あたり10円の値上げがあったことで、運営規定の改訂について運営推進会議を通じて諮ってもらえる等、都度相談に応じてもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度会議を行い、職員全体に周知している。推進会議で報告する。理解はできているが、24時間開錠はできていない。9時から17時の時間は開け、それ以外は防犯の理由もあり施錠している。倉庫なども施錠している。玄関ホールに行く方や外へ行きたい方に付き添っている	昨年の法改正における指針に基づき身体拘束廃止委員会を開催のうえ、内容は運営推進会議にも提示して、外部の意見も入るよう努めています。和やかな雰囲気が出る事業所ですが、職員の考え一つで変化してしまうこともあるため、管理者が常に目配りしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する新聞記事のコピーを揭示し意識しケアの振り返りに役立てている。マニュアルがみられる状態にしてある。言葉の暴力があった際にも報告書にて全員に周知し防止に努めている。虐待につながる可能性を含め防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は家族より後見人制度についての相談があると支援している。スタッフは学ぶ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては管理者にて行っている。利用者の状態などは面会時に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や提案を聞くように努めている。言いやすい環境づくりに気を配っている。面会時に近況を伝え気にならないか伺う。	ふるかわ新聞(奇数月に新聞係が発行)で日頃の様子を家族へ届けてはいますが、家族が週2回喫茶店などに連れ出してくださる例もあるほど面会は比較的多く、その場でフェイスTOフェイスでの話し合いを持っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞いてもらえる。言いやすい環境である。スタッフ同士では全員集まる機会がないので、ミーティングノートで意見を募っている。	「このようにしたい」と提案した一職員の考えに、皆の意見が集まるよう「ミーティングノート」が活用されており、職員も異口同音に「働きやすい」と話していて、職員間の人間関係も良好です。また福利厚生として被服代が月額5千円支給されている点も職員に好評です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保、有給休暇の消化など出来ている。就業規則が閲覧できるようになっている。研修などで向上心を持てるよう環境づくりがされていると思う。今年度は個人目標を設定してロッカーに貼り意識の向上に努めている。小さなことでも管理者から評価してもらっている。仕事ぶりをよく見てもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修・外部研修への参加の機会がある。研修に参加させていただき、少しでも生かせるようにしたい。一律にとか順番に参加ではなく、そのスタッフに合ったものを選んで誘ってもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は外部研修参加でしか行えない。他のグループホームの見学などでよいところを取り入れるなどしたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に情報の共有。利用者様から相談や要望を聞いたときはスタッフ間で共有し管理者にも伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近の入居がない。ご家族の困っていることや要望は面会時にスタッフに話していただくことが多いが判断に困る内容は管理者へ報告している。家族との関係を深められていないスタッフもいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援方法をいくつも考えスタッフの意見を聞き、ご家族に提案している。管理者に任せている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前に行っていた役割を継続して行っただけ、家事と一緒に行動、味見をしていただく。気持ちに寄り添えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行う。行事への参加、面会時にはコーヒーやお茶でくつろいでゆっくりお話していただけるように努めている。個々の家族の関係性を理解し、つながりが絶えないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人様の面会、外出時にご自宅の近くをドライブして通る、ご自宅の近くの喫茶店に行くなどなじみが途切れないようにしている。入居前の生活の様子がわからずそのように対応できていないスタッフもいる。	華道の師範をしていた人が老人クラブから届く季節の花で玄関に華やぎをもたらしているほか、洋裁や編み物が得意な人は主治医のお子さんにプレゼントしたり、各居室のカーテンタッセルを作ったださる等、これまで築いた手業が本人の有用感につながっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のトラブルもあるが、回避のため、時間をずらすなど配慮している。洗濯物を利用者様同士と一緒にたたむなど関わり合いができていると思う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になってしまった方への面会や管理者よりご家族に電話やメールで気持ちや疑問などないかを聞くなど行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の触れ合いの中でも表情や発言などから思いを察する。ご本人様の希望はスタッフ間でも意見を聞き、必要なことか話し合い、できるだけ実現に向け支援している。	以前は具体的に指導しないと掴めない職員もいましたが、現在は概ね把握できるようになっています。「この人は昔こんなことをしていたから、このことは大切にしていあげなきゃね」とバックボーンを管理者から伝え、アセスメント内容の共有を進めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの確認。ご本人や家族から情報を得る。居室に写真を飾ったり、自宅で飼っているペットの面会など少しでもなじみのある暮らし方ができていると思う。生活歴を聞き出せる話し方がもっとできると良いと思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を記入し情報の共有。表情、行動から状態の把握に努めている(起床時間や就寝時間をその時の様子で合わせる、食事時間に起きられない方等時間をずらしている。)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度ケアカンファレンスを行い、ご家族のケアへの要望、ご本人様の要望を聞き、それぞれの意見を取り込めるようにしている。担当者にてアセスメント、毎月のモニタリングも行っている。	2表のニーズは本人の発語も入り、それとともにサービス内容も具体的で分かり易く示されています。またその中から3つピックアップして集中的に実施できるようにとの工夫も見られ、オリジナルのモニタリング表で実践確認も叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入はできているが、ケアの実践や気づきや工夫までは統一されていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援ができているかは不明だが、ご本人様の要望に合うように一人一人が努力している。スタッフ間でも必要に応じて意見交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物、ご近所への散歩、地域の方々とのかかわりができるように支援している。ボランティアの方に大正琴の演奏などしていただき楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への支援はナースがおこなう。ご家族が付き添っての受診など、その時の状況にあった医療を受けることができるようにしている。	投薬に変化なく状態が安定している利用者は医師が往診に訪れ、機材や機器が必要な場合は看護師である管理者が付添って病院まで出かけています。さらに重篤になると母体病院のリフト車も出してもらえ、安心な医療体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況や状態の変化があれば、管理者であるナースに報告するようにしている。夜間でも対応してもらえるので安心できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者を通じ、病院からの情報をもらうこともでき、情報交換ができています。入院中に利用者への面会と状況の確認に行った。お見舞いも行くことが出来た。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方は管理者よりご本人、ご家族と何度も話し合い、希望を取り入れ対応した。職員同士も共有できるように個人記録への記入なども細かく行った。	末期癌の利用者については家族と何度も話し合っ、一度は「此処に居る」となった後、あまりに辛そうだったことから入院に至ったケースが本年はありました。看取りをおこなうとはしていますが、家族の選択に委ねているため、医療が充足する施設への移設もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあるが訓練は定期的に行っていない。いざという時の対応は自信がない。消防署や法人内の講習に参加		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っているが勤務日ではないと参加できない。地域との協力体制はできていない。水害時は警戒レベル3で包括棟2階へ避難。	津島市消防署に指導を求めたところ、「(ふるかわは)機具装置が整っているから防災業者に依頼して欲しい」との回答を受け、現在は年2回の訓練は業者に立ち合ってもらっています。救命救急の講習には職員が順次参加するほか、法人内の研修にも出席しています。	消火器、避難誘導、通報といったメニューの習熟レベルを職員毎に把握していくことを期待します(特に夜勤者となる職員)。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉で話ができるように心がけている。なるべく腰を落とし同じ目線で話ができるように意識している。個々の様子に合わせたコミュニケーションの方法。排泄について周囲に聞こえるような声で話すなど配慮に欠けていることもある。	居室ドア前のノックなどは無論のこと、管理者が虐待防止の研修に参加した折に得た「エドガー・シャインの謙虚なコンサルティング」を皆に観覧する等、職員教育には小さな事から取組んでいて、目についたことは即改善を旨としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの動作の前に説明してから働きかける。職員が決めないように「どうしますか」と声をかけるようにしている。希望が出ない場合は選択肢にて選んでいただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいか、「今日は何しますか?」と聞くようにしている。スタッフの体制や仕事のしやすさを優先し希望に添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の髭剃り、身だしなみを整える、お化粧、整髪を行う。女性の方で希望される方には白髪染めを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がメニューを作っている。利用者のリクエストを取り入れる。食事準備など一緒に行う。買い物の時に好きな物を選んでいただく。	利用者の好みも考慮してユニット別の献立とし、新鮮な食材を用いて調理方法や味付けにも変化をつけて職員が手作りしています。参加型や行事食にも取組み、特に焼肉パーティーは利用者にも大好評で頻回に実施され、職員がエンドレスで焼くことになるほど盛況です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護スタッフの考えたメニューであり栄養面に自信があるわけではない、食べる量が少ない方には器を小さくして食欲がでるよう工夫している。主治医に相談しエンシュアHi等で栄養を補っている方もいる。糖尿病の方への食事量の制限など行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。仕上げ磨きが必要な方には介助している。うまく誘導できず歯磨きが出来ない時もある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせ支援するが、タイミングが合わずにパットに出してしまうこともある。作業前後のトイレへの誘導や、ケアの見直しが必要な方もいる。	排泄チェック表をつけ、リズムを把握して声をかけています。「夏になって蒸れやすくなったときは好機としてパットを外す試みをする」といった臨機な対応や工夫ができるようにと管理者から伝え、職員の気づきを促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳を多くとって頂くようにする。なるべく水分を多くとっていただけるようにしている。朝夕のラジオ体操にて少しでも運動していただく。それでもダメな方は緩下剤の使用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「今日の入浴はやめておく」と言われたときは翌日にする、時間を変えて再度確認するなど対応している。2～3種の入浴剤から選んでいただく。排泄の後や希望に合わせて入浴して頂ける様に心掛けている。	1日置きの入浴としてはいますが、「職員数が潤沢なら毎日でも」との考えを持っています。拒否が激しい人もいますが、「〇〇ちゃんが夜番(夜勤)だで嬉しい」と利用者から人気の職員が誘うとスムーズです。また柚子を浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子により早めの就寝や個々に合わせて対応する。食後居室にて休まれる方もいる。夜眠れないという方には無理強いせず一緒に過ごす。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ナースにて管理し、効果や副作用の変化など把握に努めている。個別ファイルにて薬剤情報がある。すべて覚えきれない。後から気が付くこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無為状態が続かないようにアクティビティーへの参加を促す。感謝の言葉をつたえる。洗濯物たたみ、パズル、そろばん、工作(季節の壁画)作り安堵の方が得意なものを進め役割を持てるように支援している。一緒に楽しむことを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、食材の買い物、喫茶店カラオケなど外出の機会を持っているように工夫している。ご家族との外出。昨年度と比べて散歩など減っている。	地域のお寺や喫茶店、フードコートへと出かけていて、また玄関には帽子がかかり散歩の慣行が視えます。職員の自律を養うためにユニット長や係は輪番にしている、今期外出の係となる職員には「コンサートやスーパー銭湯へ」との構想もあり、今後に更に楽しみとなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かり金として必要なものを一緒に買いに行くが、支払いなどはスタッフにて行っている。能力に応じてお金を渡して払っていた事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望される方はないが、ご家族から年賀状が届いたときは大変喜ばれている。お一人だが遠方で会えない家族へ写真と手紙を送る計画をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画や近所の方にもらった花を生け飾る、エアコンの調節、カーテンでの遮光など行う。移動しやすい動線の確保。	ごく普通の家庭のようにマガジンラックが在り、ラジカセやレクリエーション活動の道具が定められた場所に置かれています。「まだまだ清掃が足りない」としてはいますが、外部者から見ると5Sが行き渡っています。	「まだまだ清掃が足りない」とのことですので、今後職員間で更なる取組みについて話し合われることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士でおしゃべりができるようにする。廊下にもいすやソファがあり思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいている。年数が古く壊れてしまったこともある。面会時に家族と一緒に撮った写真をお部屋に飾る。居室の清掃が行き届いていないことが目立つ。	例えば64インチほどもあるテレビを置く人も現在では観ることもなく、年数を経て重度化も進み、入居の折に持ち込んだ馴染みのものを使えなくなっている利用者も少なくありません。中には、お弁当持ちでほぼ毎日訪れる友人と二人で居室で過ごす人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり安全に感じるが、かえって利用者の歩行能力が落ちたようにも思える。必要な方は居室にセンサーを置き、転倒など事故がないように工夫はし、安全面に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ 西ユニット		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和元年8月31日	評価結果市町村受理日	令和元年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kami=true&JiyosyoCd=2392700049-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族が面会に来ていただきやすい雰囲気づくりに努めている。スタッフで献立作りをしているが、季節や行事を取り入れ一緒に食材の買い出しや調理を行っている。誕生日には希望のお店に外食に行く、またはその方の希望に合ったプレゼントを考えるなど工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室入口には本人をモチーフとした切り絵風の表札が手作りで配され、廊下の一画にはクラフト作品の祠にお地蔵様が鎮座し、外出行事を雨天で断念した日には急ぎょパン喰い競争や運動会弁当風の食事とプログラム盛りだくさんの運動会が開催されていて、至る点において職員の力量の高さが覗える事業所です。年度始めの願い事は干支の切り抜きにそれぞれが想いを寄せるも、反応が薄かったり、発語が難しい利用者には「職員一同」としてエールが綴られ、リビングに集う利用者と職員の仲睦まじい様子や、各居室の個性性の際立ちからは、家族と職員、利用者が一つとなって穏やかで和やかな暮らしをつくっていることが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットリビングに理念「明るく笑い楽しめる心やすらぐ家」が掲げてあり誰でも見れるようになっている。 常に意識するようと思うが出来ていないこともある。 出勤時に見て自身に言い聞かせている。 ユニットごとの目標 個人目標も作った		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の老人クラブの方を招き臨時喫茶を開いたり、散歩中のあいさつなど少しでも地域との交流ができるようにしている。町内の回覧板もある。開設時からきてくれているボランティア団体がある。お花を持ってきて下さる方もいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブの方を招き臨時喫茶で、ふるかわの日常を感じて頂き認知症とふるかわへの理解をして頂く。 地域の方に認知症の方の理解を深めていただけようになりたいが機会が少なくできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、行事などの取り組み状況、事故、職員研修、今後の予定などの報告を行い意見をもらっている。ご家族様からも意見をいただきスタッフに伝え、ケアにつなげている。スタッフ全体的に議事録をしっかり読み実践に結び付けてほしい		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡事項についてはメールでのやり取り、電話での問い合わせも行う。窓口に出向いた時も質問や相談などには丁寧に答えてくれる。推進会議にも必ず参加して下さるので、ユニット長はかかわりが出来、身近に感じる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度会議を行い、職員全体に周知している。推進会議で報告する。理解はできているが、24時間開錠はできていない。9時から17時の時間は開け、それ以外は防犯の利用もあり施錠している。倉庫なども施錠している。玄関ホールに行く方や外へ行きたい方に付き添っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する新聞記事のコピーを掲示し意識しケアの振り返りに役立てている。マニュアルがみられる状態にしてある。言葉の暴力があった際にも報告書にて全員に周知し防止に努めている。虐待につながる可能性を含め防止に努めている。ケアする側にストレスや不安がある時もある		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者は家族より後見人制度についての相談があると支援している。スタッフは学ぶ機会がない。障害者手帳の取得など対象者には説明し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては管理者にて行っている。利用者の状態などは面会時に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や提案を聞くように努めている。言いやすい環境づくりに気を配っている。面会時に近況を伝え気にならないか伺う。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞いてもらえる。言いやすい環境である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保、有給休暇の消化など出来ている。就業規則が閲覧できるようになっている。研修などで向上心を持てるよう環境づくりがされていると思う。今年度は個人目標を設定してロッカーに貼り意識の向上に努めている。小さなことでも管理者から評価してもらっている。仕事ぶりをよく見てもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修・外部研修への参加の機会がある。研修に参加させていただき、少しでも生かせるようにしたい。一律にとか順番に参加ではなく、そのスタッフに合ったものを選んで誘ってもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は外部研修参加でしか行えない。他のグループホームの見学などでよいところを取り入れるなどしたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談はほかのスタッフにも伝える。情報の共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム全体で家族の面会への対応には気を配っている。くつろげる雰囲気づくりに努力している。挨拶のみで終わることもあるが、管理者へ報告したりほかの職員に確認する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居については金額やホームの特性・悪い点も伝え、又他の施設や在宅の方法も話したりしている。ホームでの支援の仕方なども伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事、したいことを把握するように努め、家事などの参加へつなげている。感謝の気持ちを伝える様に努力している。親密になりすぎないように気を付けているがつい入りすぎる事もある。要介護者と介護士の関係になってしまう事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会を利用者と共に喜ぶ。面会時にはゆっくり過ごして頂ける様にお茶やお菓子をお出しする。空調にも気を付けている。帰りは一緒に外までお見送りをする。ご家族の気持ちになって楽しんでもらえることを考える。ホームのイベントに参加していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	喫茶店やスーパーと一緒に行っていただき野菜を選んでいただく等活躍の場を作るようにしている。なじみの店に行く。お墓参り、ご自宅であるお寺へのお参り		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う合わないがあるので様子を見ながら席など配慮している。孤立しないように心がける。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になってしまった方への面会や管理者よりご家族に気持ちや疑問などないかを聞くなど行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を言えない方へもスタッフ間で話し合い検討している。それぞれの人生(生活歴)をお聞きし、そこに寄り添い、気持ちが落ち着ける方法を常に探す。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境の把握に努めている。ケアプランに対してのモニタリングも毎月行っている。モニタリングが出来ていないスタッフもいる。デイサービスの話など聞き、ホームでのレクにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝一人ひとりとあいさつし把握に努めている。朝の健康チェックや表情・動作などで状況に合わせる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度ケアカンファレンスを行い、ご家族のケアへの要望、ご本人様の要望を聞き、それぞれの意見を取り込めるようにしている。担当者にてアセスメント、毎月のモニタリングも行っている。スタッフ同士で細かい部分まで話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、口頭での申し送り、申し送りノートの活用。変化については細かくわかりやすく記入。申し送りノートはスタッフみんなが記入でき活用できるようになってきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物やお寺へのお参り、好みの物を選んでいただく(漬物が食べたい)、買い物のお時間におやつを食べてから帰る等。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物、ご近所への散歩、地域の方々とかかわりができるように支援している。ボランティアの方に大正琴の演奏などしていただき楽しみにしている。市の広報や新聞からイベントを探し外出につなげる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への支援はナースがおこなう。ご家族が付き添っての受診など、その時の状況にあった医療を受けることができるようにしている。内科の往診有。歯科も通院または往診		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況や状態の変化があれば、管理者であるナースに報告するようにしている。夜間でも対応してもらえるので安心できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者を通じ、病院からの情報をもらうこともでき、情報交換ができています。入院中に利用者への面会と状況の確認に行った。お見舞いも行くことが出来た。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方は管理者よりご本人、ご家族と何度も話し合い、希望を取り入れ対応した。職員同士も共有できるように個人記録への記入なども細かく行った。職員も利用者にとって一番大切なことを尊重したいと思っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあるが訓練は定期的に行っていない。消防署や法人内の講習に参加。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っているが勤務日ではないと参加できない。地域との協力体制はできていない。備蓄は出来ている。水害時は警戒レベル3で包括棟2階へ避難。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	後ろから声をかけないように、ゆっくりとした言葉づかいをするようにこころ掛けている。トイレ介助や入浴時の配慮、プライドを傷つけない、羞恥心を理解するように努めている。全体に笑顔が増えてきたと思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できないことはあるかもしれないがスタッフ中心のペースにならないように心がけている。「今日何かイベント無いですか」「どっかいく？」と予定表を確認しては質問する方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をするか、どれにするか聞く事もあるが、確認していないこともある。何かに誘い断られても、時間を置いて確認する。編み物、生け花、塗り絵、好みは様々。一日の流れをスタッフで決めていない、その日を大切にするように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみが習慣になった。一緒に服を買いに出かける。化粧水を付ける、髪を結ぶ、白髪染め。朝、会った時に服を褒める。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフがメニューを作るが、希望を取り入れるようにしている。調理、盛り付けなど行って頂く。ボードにメニューを書き楽しみにして頂けるようにしている。季節や行事食を取り入れる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時の発言(固い、辛い、おいしい等)を気にかけて、調理の時に配慮できるようにしている。盛り付けや器にも工夫する。お茶が苦手な方や水分の少ない方など個別に摂取方法を工夫する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを準備し声かけして行う。仕上げ磨きや義歯を外して洗うなど声をかける。口腔ケア用のウェットも使っている。ポリデント週2回		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンに合わせた排せつ、昼間短時間でもパットを外したり表情を見てトイレ誘う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を取り入れる。乳製品、水分をこまめにする。果物なども多く取り入れる。なるべく歩行器で歩いていただく、つ筋力維持、運動をして頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	長湯、熱い湯が好きな方などそれぞれの好みに合わせる。排泄時に汚染があった時などにも入浴。入浴嫌いな人もいるが、確認しながら行っている。入浴剤も2~3種から選んでいただく。お風呂では1対1の支援なのでゆっくり話が出来る。その時間を大切にしている。毎回お湯は入れ替える		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間も様子に合わせて休息していただく。夜間に眠れない方がいた場合も無理に入眠を促さず一緒に過ごす。寝返りの出来ない方に1時間から2時間おきの体位変換。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテの薬剤情報は確認している。ナースから薬の変更や注意点を聞いたときは変化が無いか気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやハスル、塗り絵、編み物など行いながら過ごしていただく。気分転換に散歩やお参りなどその方によって希望する事が違う。生け花をする方などその方によって違う。買い物に行ったときにフードコーナーに座りおしゃべりするなどで気分転換を図る。お地蔵様を置きお経を唱えていただく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にあわせ散歩に出かける。喫茶店や季節の外出、カラオケなどしている。まだ行った事の無い所へも挑戦したい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり衣類やマッサージクリーム、必要な物を買に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方への支援 年賀状を毎年書かれる方への支援		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの調節、換気、カーテン、リビングの壁画、BGM、トイレの芳香剤なども良いと思う。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの位置を工夫、居室、リビングの模様替え 座るところが決まっているような事もあり、トラブルにならないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団を干したり、洗濯して気持ちよく過ごしていただけるようにする。リビングの整理整頓に気を付けたい。亡き夫の為に仏壇を置き、月命日にお寺さんが来られる。紙パンツなどは居室に置いているため布で隠している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にセンサーを置き対応。洗面所などで床に水をこぼしていないか等確認。内出血しやすい方へのアームカバーの使用、家具へ保護材の使用開所当時から雨漏りがあり危険である。歩行の妨げにならないように整理整頓。		